

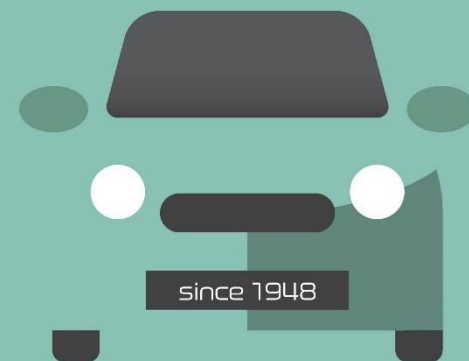
 **日本プラスト株式会社**

2022年3月期 決算説明 (I部)

I. 2022年3月期 決算報告

II. 2023年3月期 通期見通し

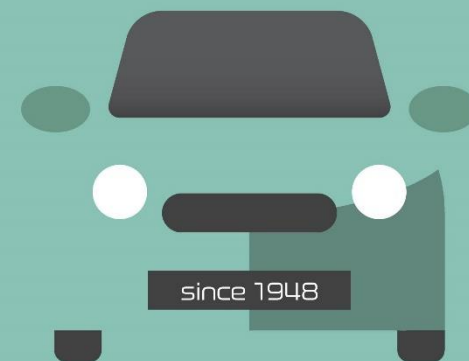
III. トピックス



I. 2022年3月期 決算報告

II. 2023年3月期 通期見通し

III. トピックス



(1) 概要



(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		対前年比	
					増減	伸率
売上高	83,065	100.0%	86,504	100.0%	3,439	4.1%
売上原価	75,634	91.1%	79,920	92.4%	4,285	5.7%
売上総利益	7,430	8.9%	6,584	7.6%	▲ 846	▲ 11.4%
販売費及び一般管理費	6,141	7.4%	7,307	8.4%	1,165	19.0%
営業利益又は 営業損失(▲)	1,288	1.6%	▲ 722	▲ 0.8%	▲ 2,011	—
経常利益又は 経常損失(▲)	1,669	2.0%	▲ 289	▲ 0.3%	▲ 1,959	—
親会社株主に帰属する 当期純損失(▲)	▲ 1,045	▲ 1.3%	▲ 8,018	▲ 9.3%	▲ 6,973	—
1株当り 当期純損失(▲)	▲ 54.35円		▲ 419.41円		—	—
1株当たり配当金	20.00円		20.00円		—	—

設備投資額	6,290	7,227	937	14.9%
減価償却費	4,882	5,562	679	13.9%

US \$ 換算レート	注1) 106.44円	注2) 110.39円	3.95円	—
-------------	-------------	-------------	-------	---

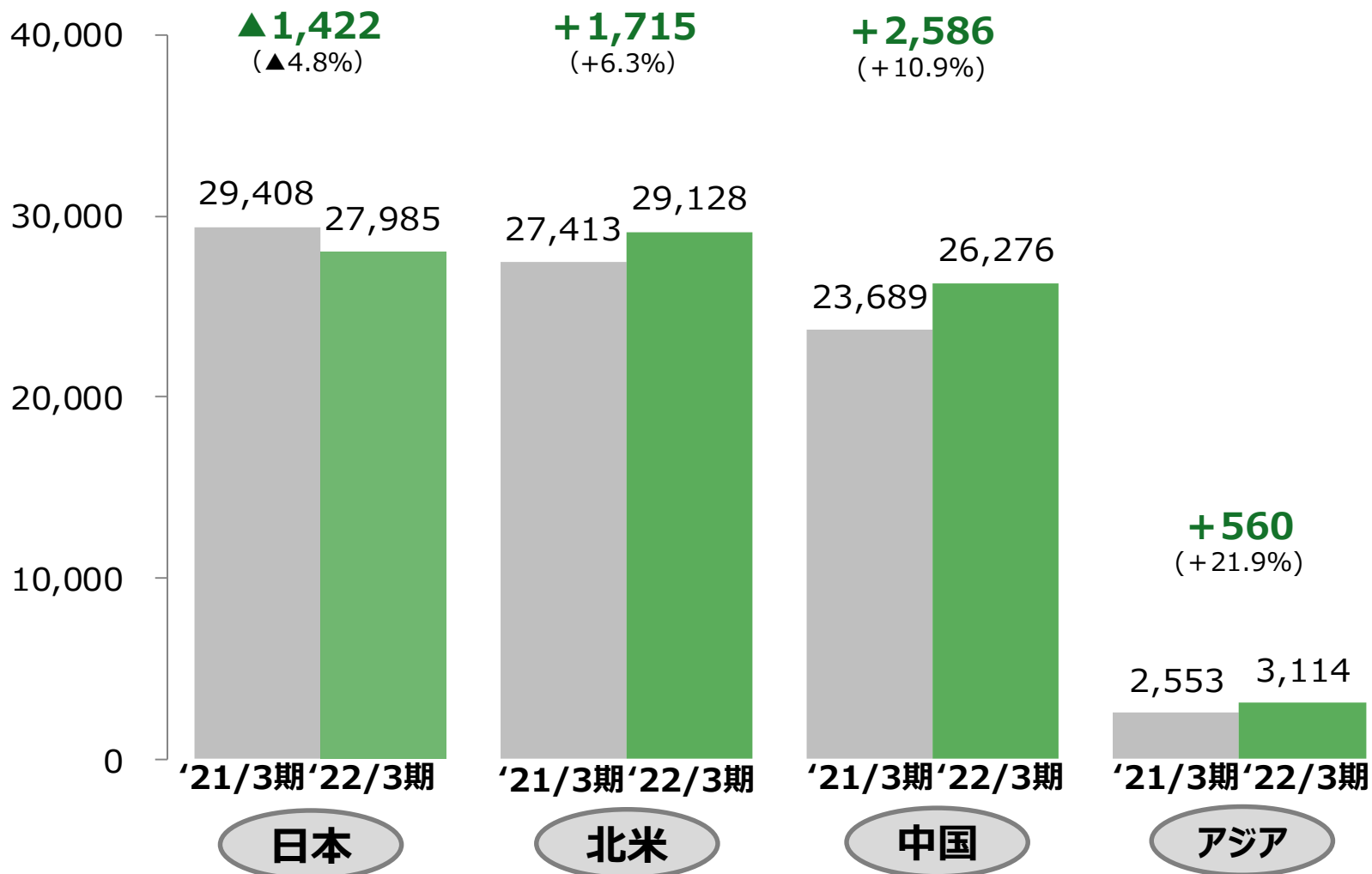
注1) 20年1~12月平均レート

注2) 21年1~12月平均レート

(2) セグメント情報 <地域別売上>



(単位：百万円)

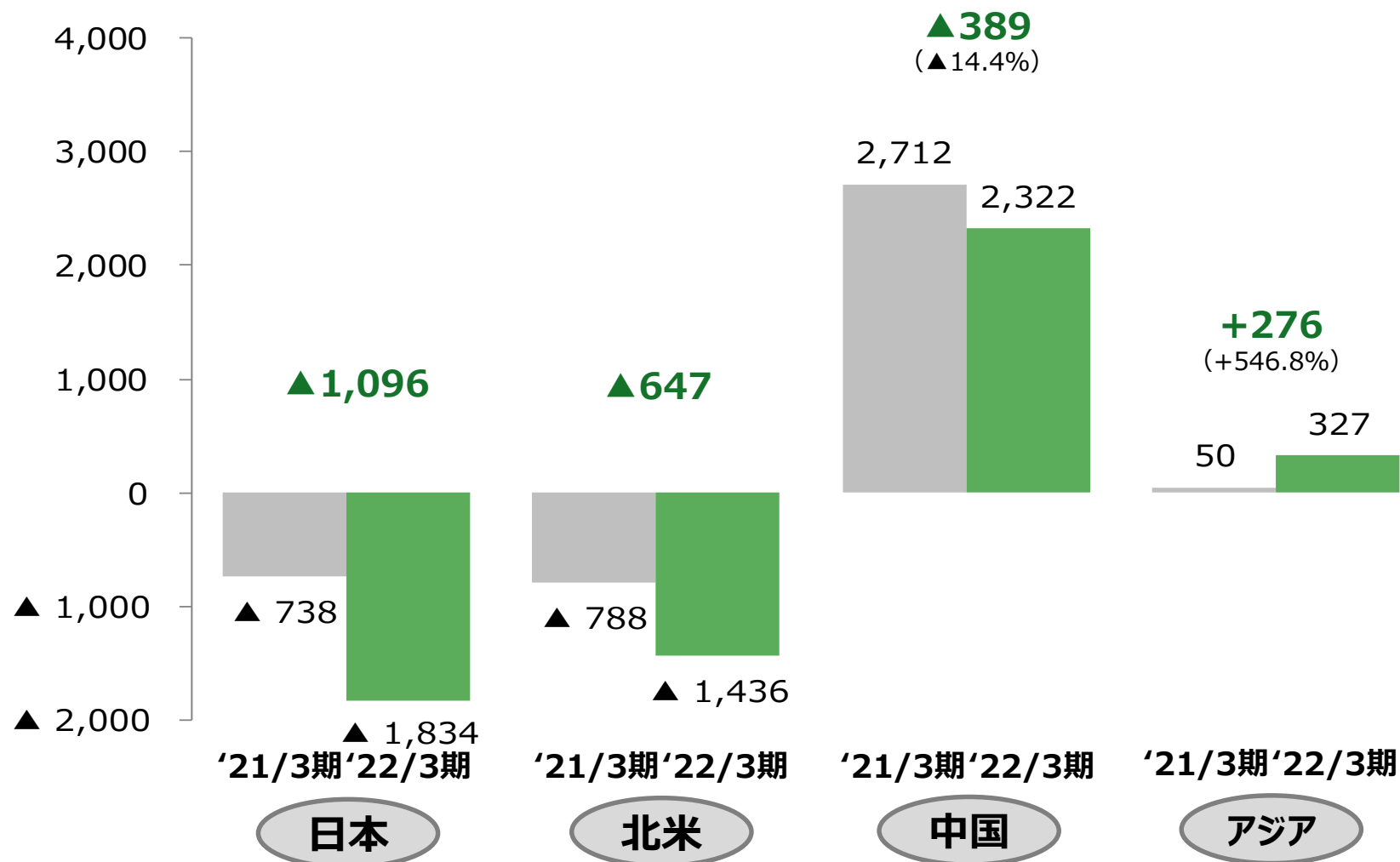


2Qまでの新型コロナウイルス感染拡大影響からの復旧及び為替影響等により増収
足元では、長期化する半導体供給不足の影響等で厳しい状況が続く

(2) セグメント情報 <地域別営業利益>



(単位：百万円)



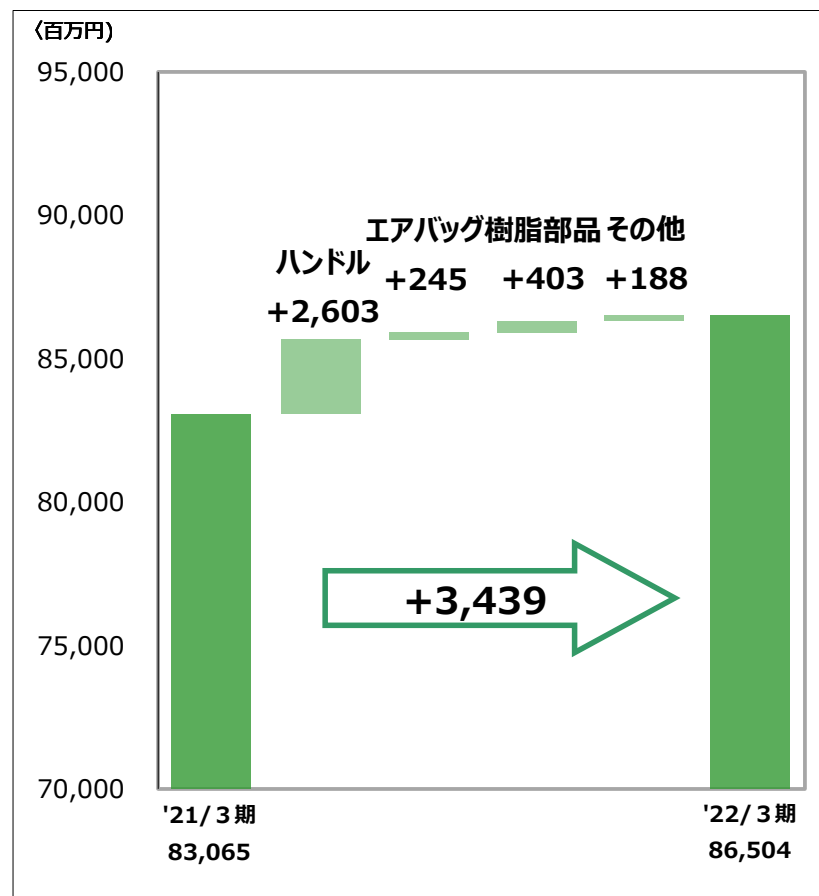
増収影響及び合理化効果はあるものの、半導体影響による減収や生産ロス、海上輸送費の高騰、市況変動等により厳しい状況が続く

(3) 製品別売上



(単位：百万円)

	'21/3期	'22/3期	対前年比	
			増減	伸率
			ハンドル	19,878 (23.9%)
エアバッグ	23,057 (27.8%)	23,302 (26.9%)	245	1.1%
樹脂部品	38,975 (46.9%)	39,378 (45.5%)	403	1.0%
その他	1,155 (1.4%)	1,343 (1.6%)	188	16.3%
連結売上高	83,065	86,504	3,439	4.1%



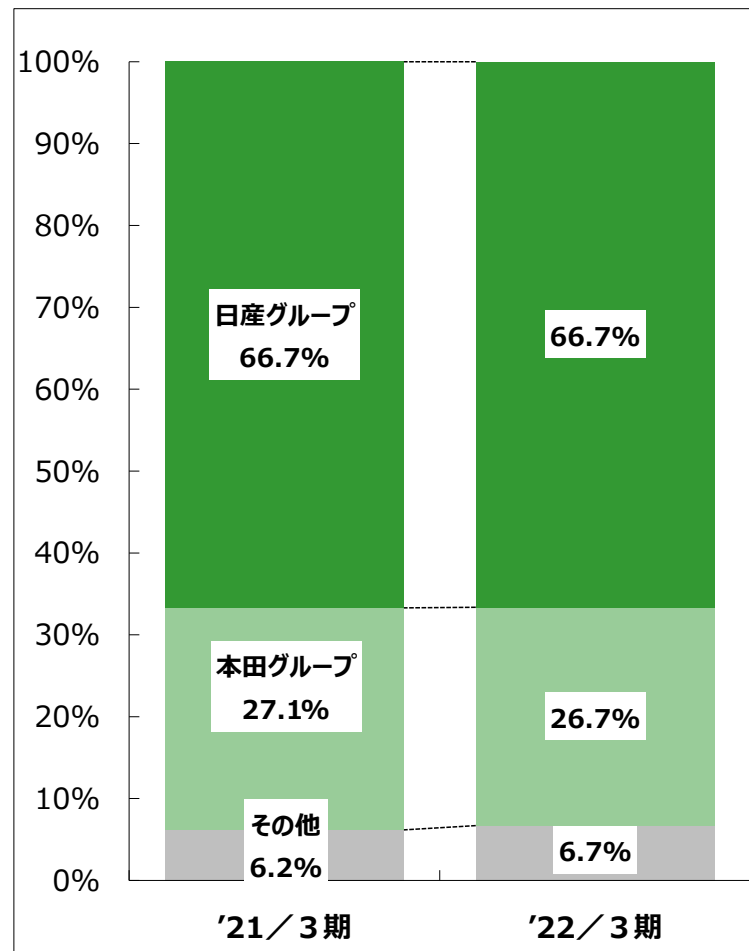
全製品で一様に増加

(4) 得意先別売上



(単位：百万円)

	'21/3期	'22/3期	対前年比	
			増減	伸率
日産グループ	55,401 (66.7 %)	57,660 (66.7 %)	2,259	4.1 %
本田グループ	22,532 (27.1 %)	23,071 (26.7 %)	539	2.4 %
その他	5,132 (6.2 %)	5,773 (6.7 %)	641	12.5 %
連結売上高	83,065	86,504	3,439	4.1 %

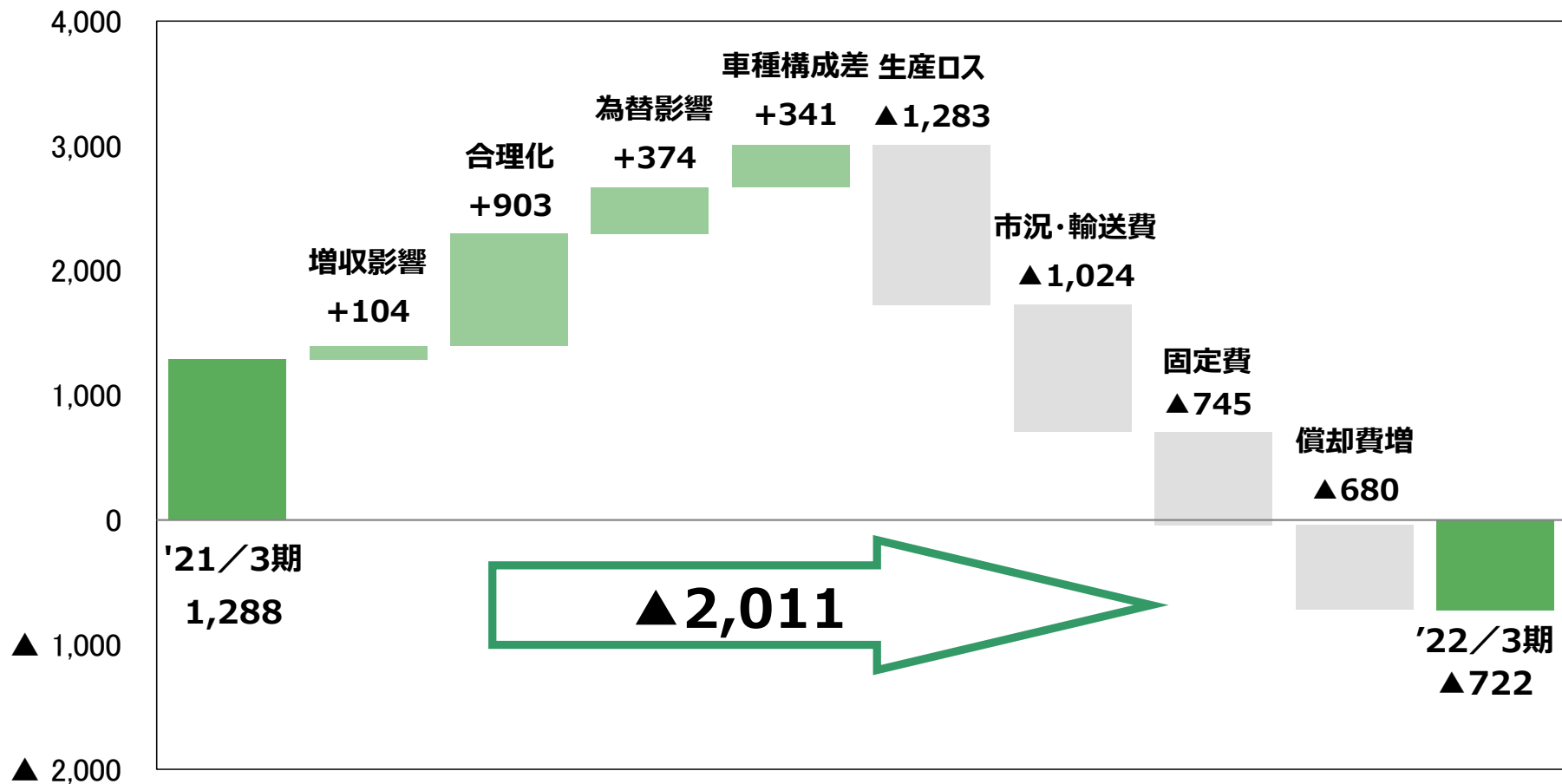


全得意先で一様に増加

(5) 営業利益増減説明



(単位：百万円)



合理化により挽回を見込むも、半導体影響による生産ロス、市況・海上輸送費の高騰、固定費の増加等により赤字

(6) B/S主要増減



(単位：百万円)

	'21/3末	'22/3末	前年度末比	主要増減要因
流動資産	40,323	45,360	5,037	・原材料及び貯蔵品 +3,137 ・現金及び預金 +1,712
固定資産	34,213	34,176	▲ 37	・無形固定資産 ▲ 390 ・有形固定資産 +102
資産合計	74,536	79,536	5,000	

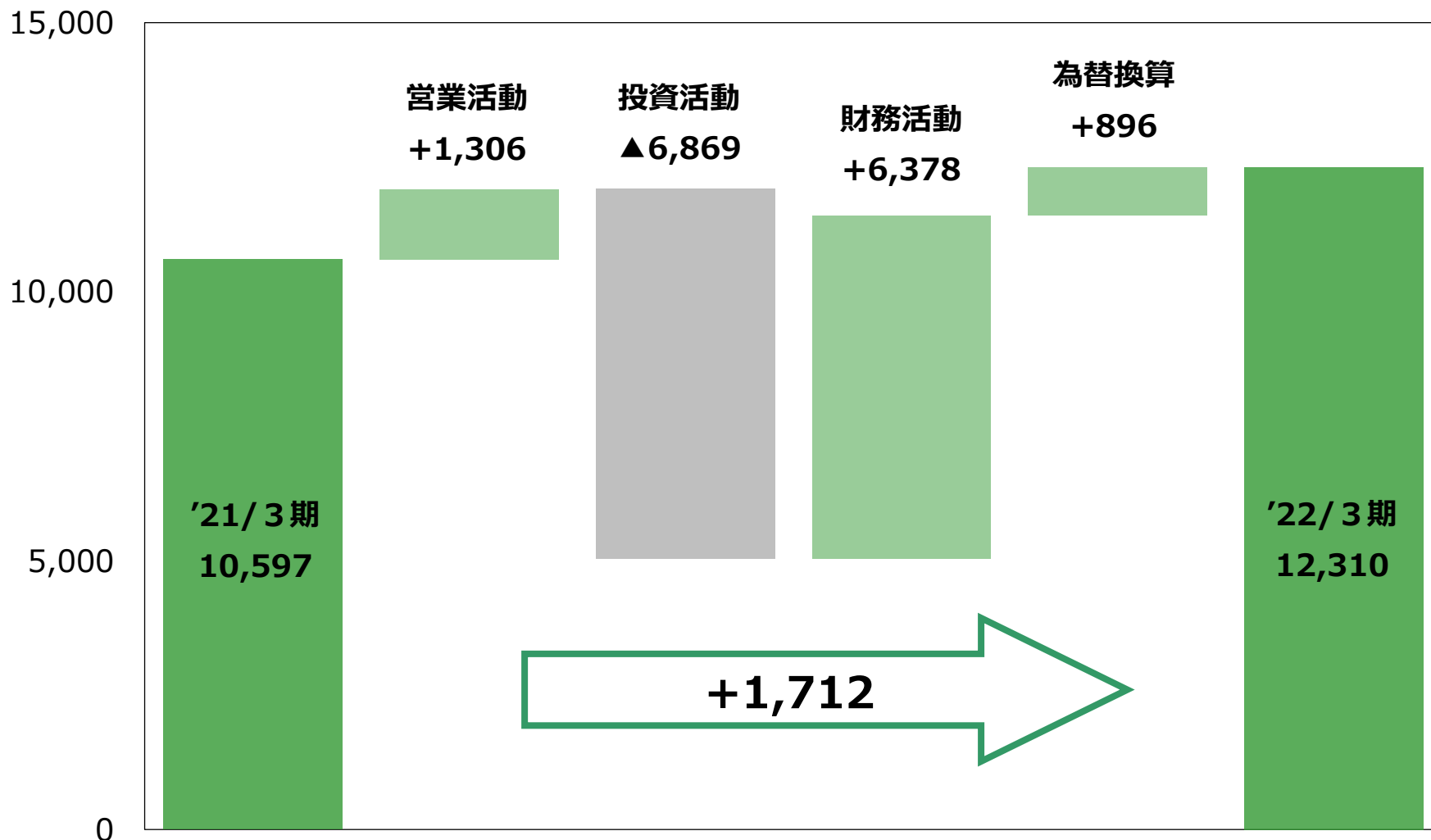
	'21/3末	'22/3末	前年度末比	主要増減要因
流動負債	31,951	40,103	8,151	・短期借入金 +6,598
固定負債	9,673	12,056	2,382	・長期借入金 +1,313
純資産	32,911	27,377	▲ 5,533	・利益剰余金 ▲ 8,504 ・為替勘算調整勘定 +3,033
自己資本比率	44.2%	34.4%	▲ 9.7%	
負債純資産合計	74,536	79,536	5,000	

自己資本比率は34.4%

(7) C/F増減



(単位：百万円)

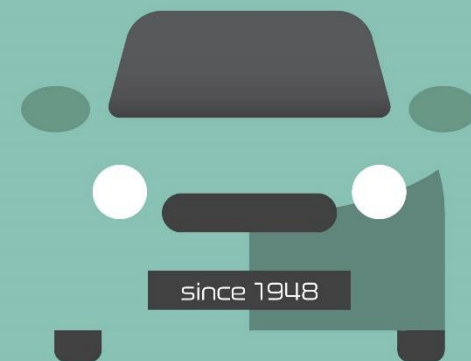


必要な手元資金は十分に確保

I. 2022年3月期 決算報告

II. 2023年3月期 通期見通し

III. トピックス



(1) 概要



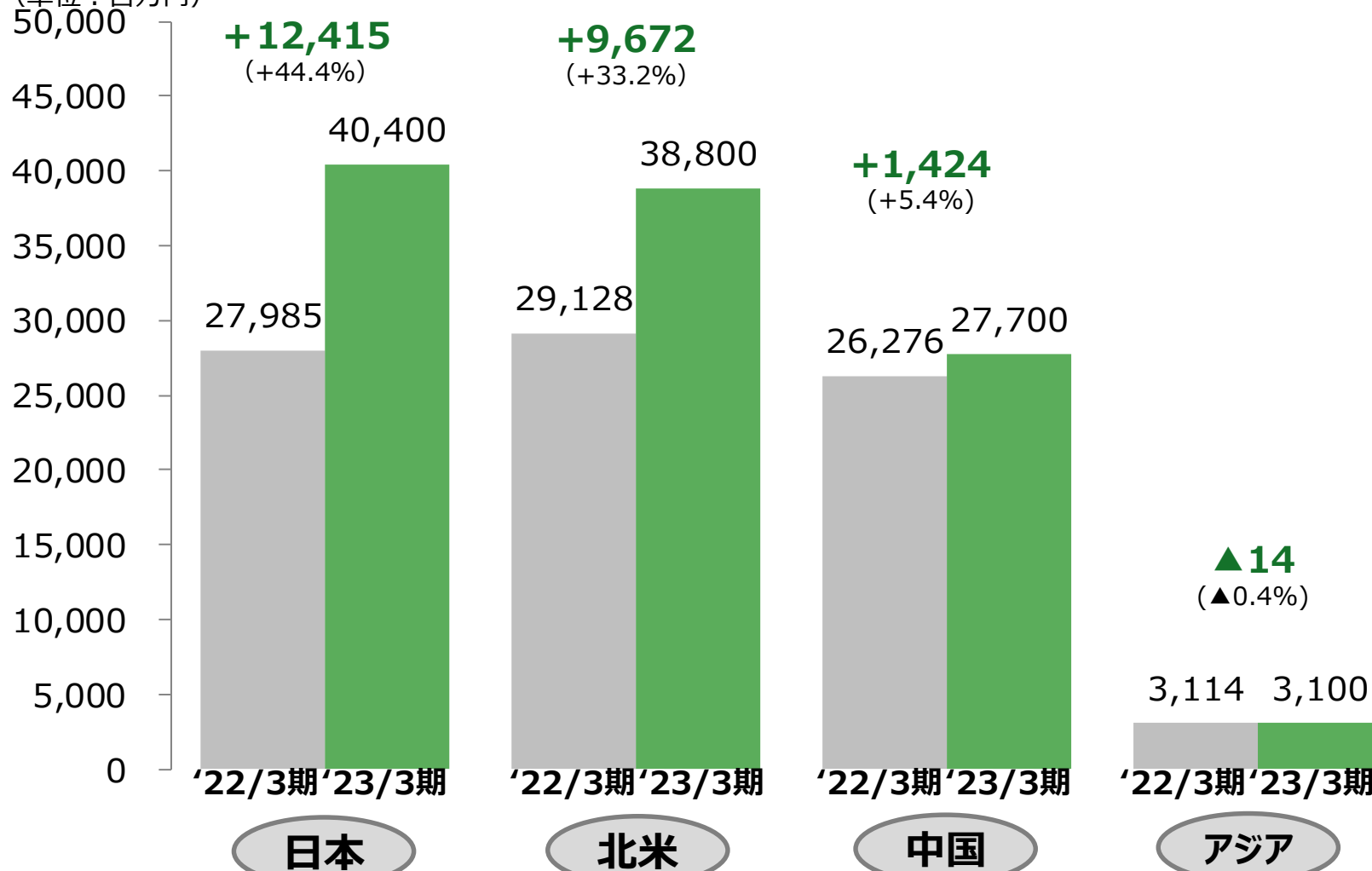
(単位：百万円)

	2022年3月期		2023年3月期		対前年比	
					増減	伸率
売上高	86,504	100.0%	110,000	100.0%	23,495	27.2 %
営業利益又は 営業損失(▲)	▲ 722	▲ 0.8%	2,500	2.3%	3,222	—
経常利益又は 経常損失(▲)	▲ 289	▲ 0.3%	2,300	2.1%	2,589	—
親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社株主に帰属する 当期純損失(▲)	▲ 8,018	▲ 9.3%	1,400	1.3%	9,418	—
1株当り当期純利益又は 1株当り当期純損失(▲)	▲ 419.41円		73.22円		—	—
1株当たり配当金	20.00円		20.00円		—	—
設備投資額	7,227		7,500		273	3.8 %
減価償却費	5,562		5,785		223	4.0 %
US \$ 換算レート	110.39円		125.00円		14.61	—

(2) セグメント情報 <地域別売上>



(単位：百万円)

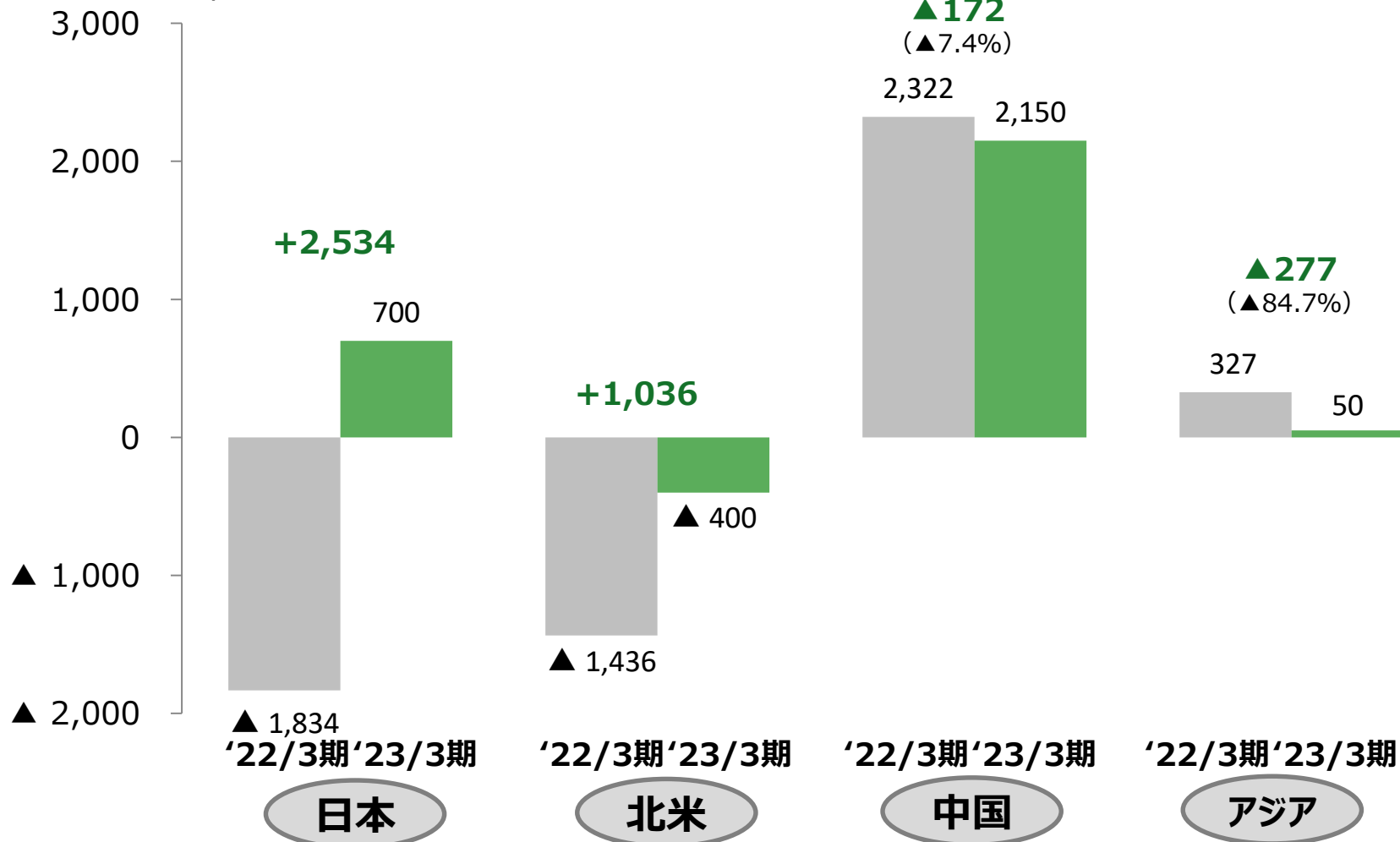


上期は厳しい状況が続くものの、下期は挽回し、増収の見通し

(2) セグメント情報 <地域別営業利益>



(単位：百万円)



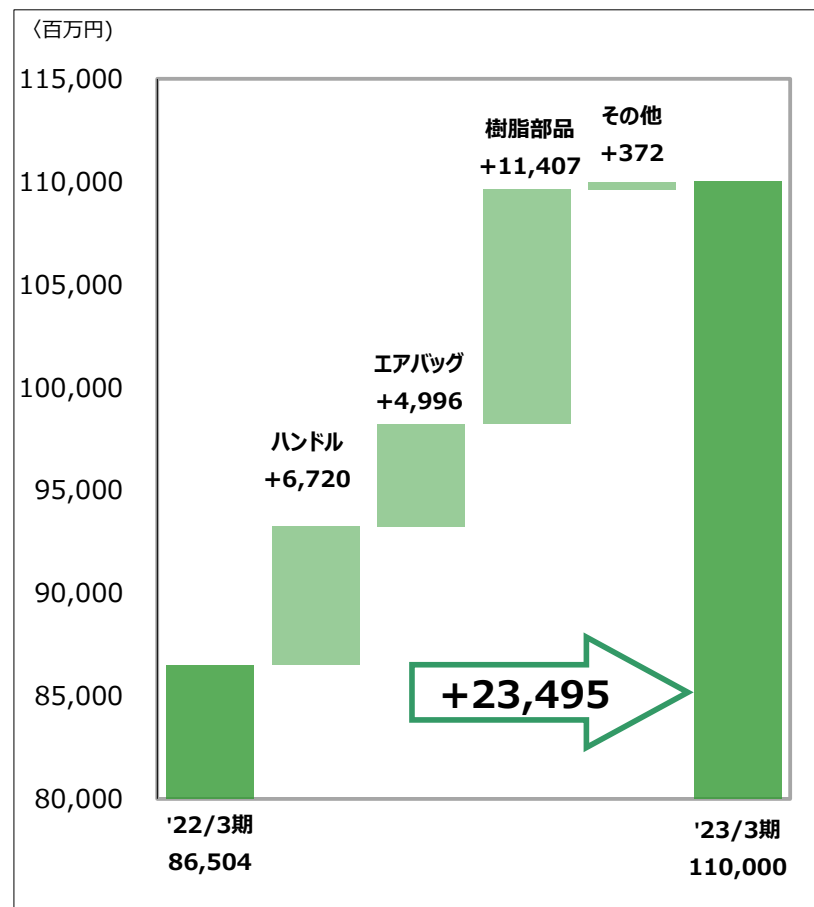
増収影響等により黒字化する見通し

(3) 製品別売上



(単位：百万円)

	'22/3期	'23/3期 (予)	対前年比	
			増減	伸率
			ハンドル	22,481 (26.0%)
エアバッグ	23,302 (26.9%)	28,298 (25.7%)	4,996	21.4%
樹脂部品	39,378 (45.5%)	50,785 (46.2%)	11,407	29.0%
その他	1,343 (1.6%)	1,715 (1.6%)	372	27.7%
連結売上高	86,504	110,000	23,495	27.2%



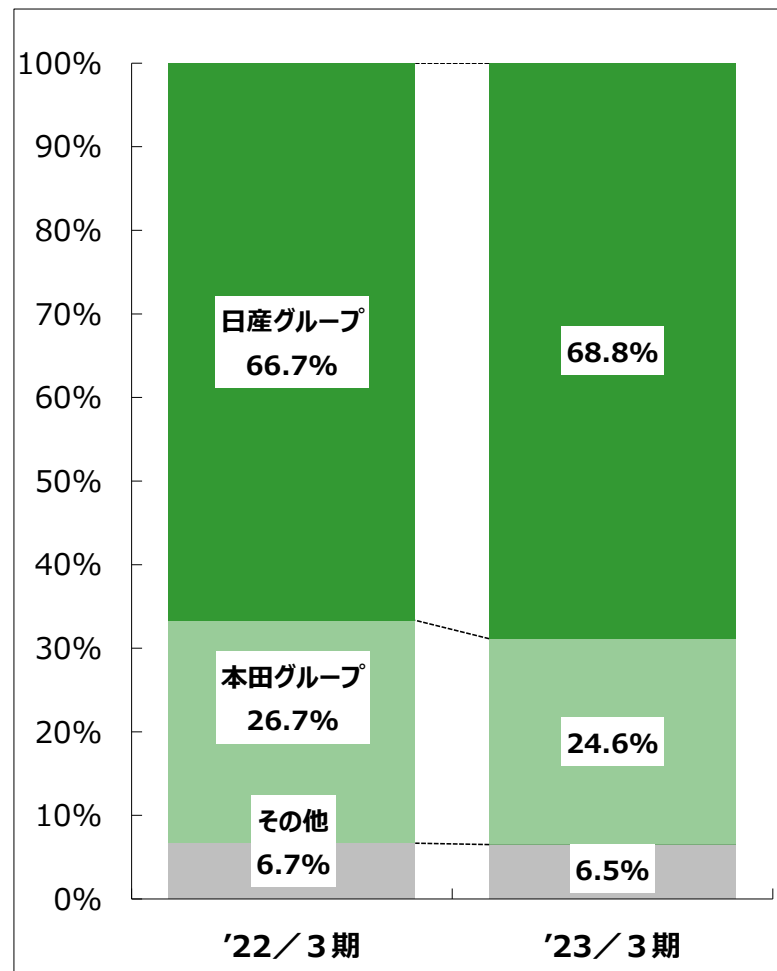
全製品で一様に増加となる見通し

(4) 得意先別売上



(単位：百万円)

	'22/3期	'23/3期 (予)	対前年比	
			増減	伸率
			日産グループ	57,660 (66.7 %)
本田グループ	23,071 (26.7 %)	27,103 (24.6 %)	4,032	17.5 %
その他	5,773 (6.7 %)	7,192 (6.5 %)	1,419	24.6 %
連結売上高	86,504	110,000	23,495	27.2 %

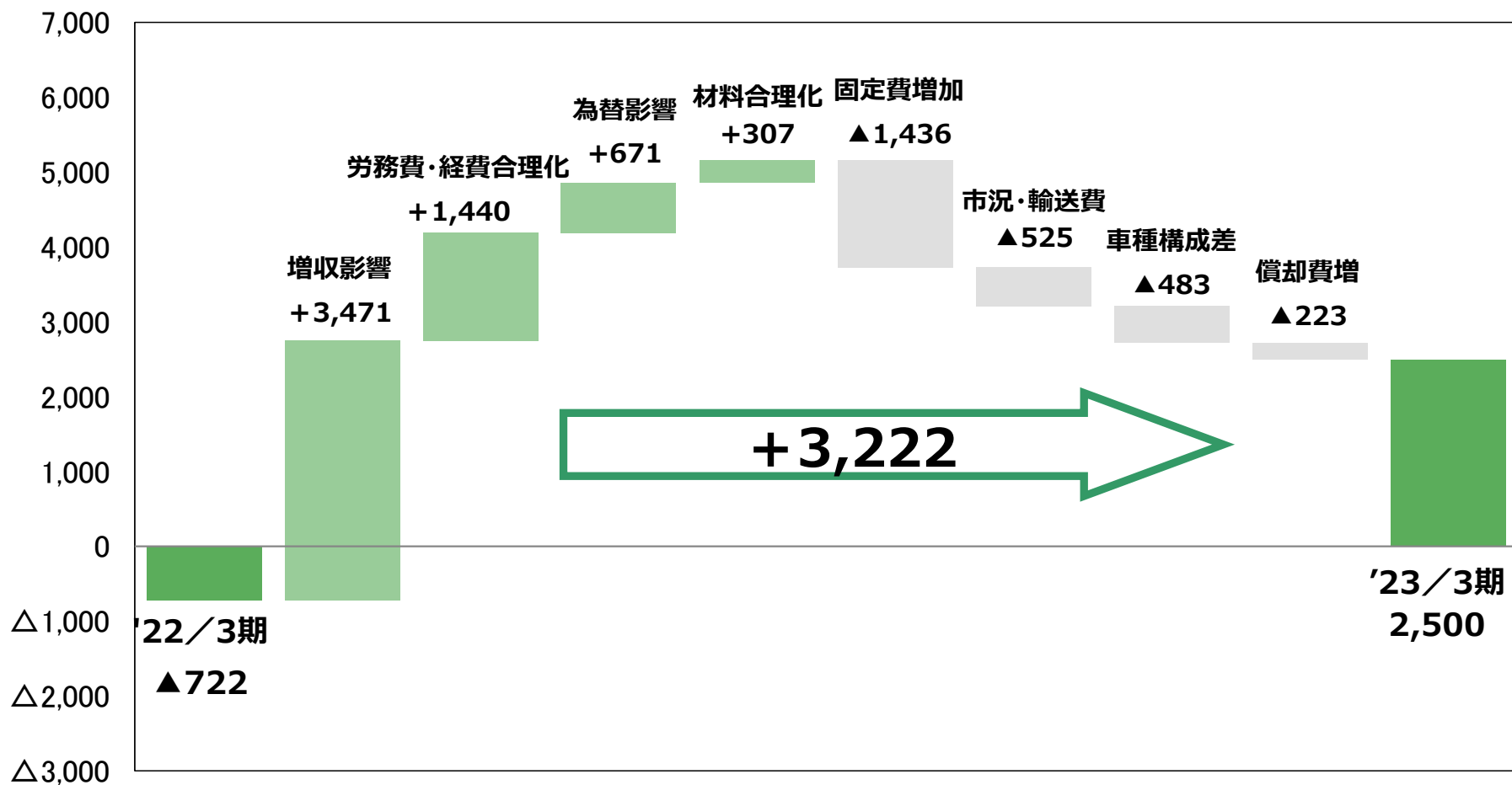


全得意先で一様に増加となる見通し

(5) 営業利益増減説明

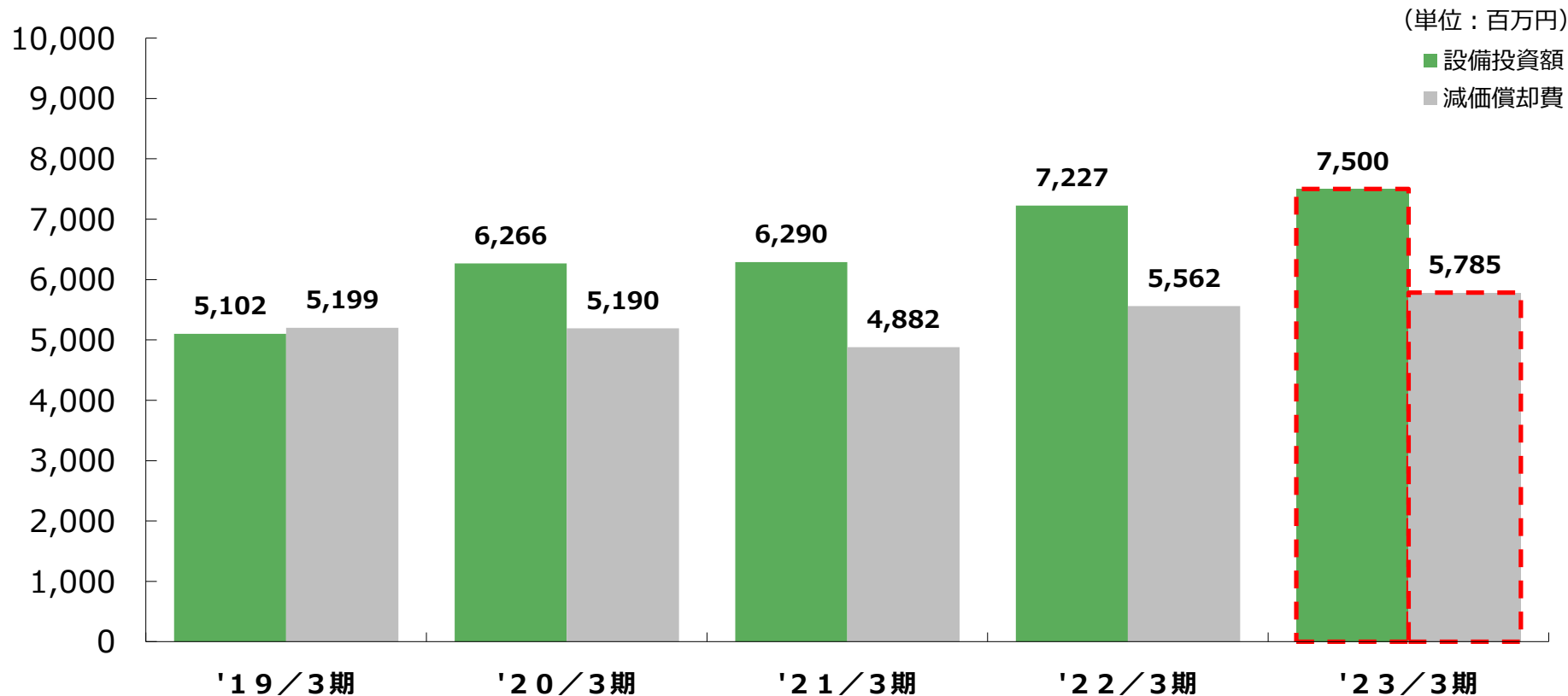


(単位：百万円)



増収影響及び合理化等により、黒字化する見通し

(6) 設備投資と減価償却費



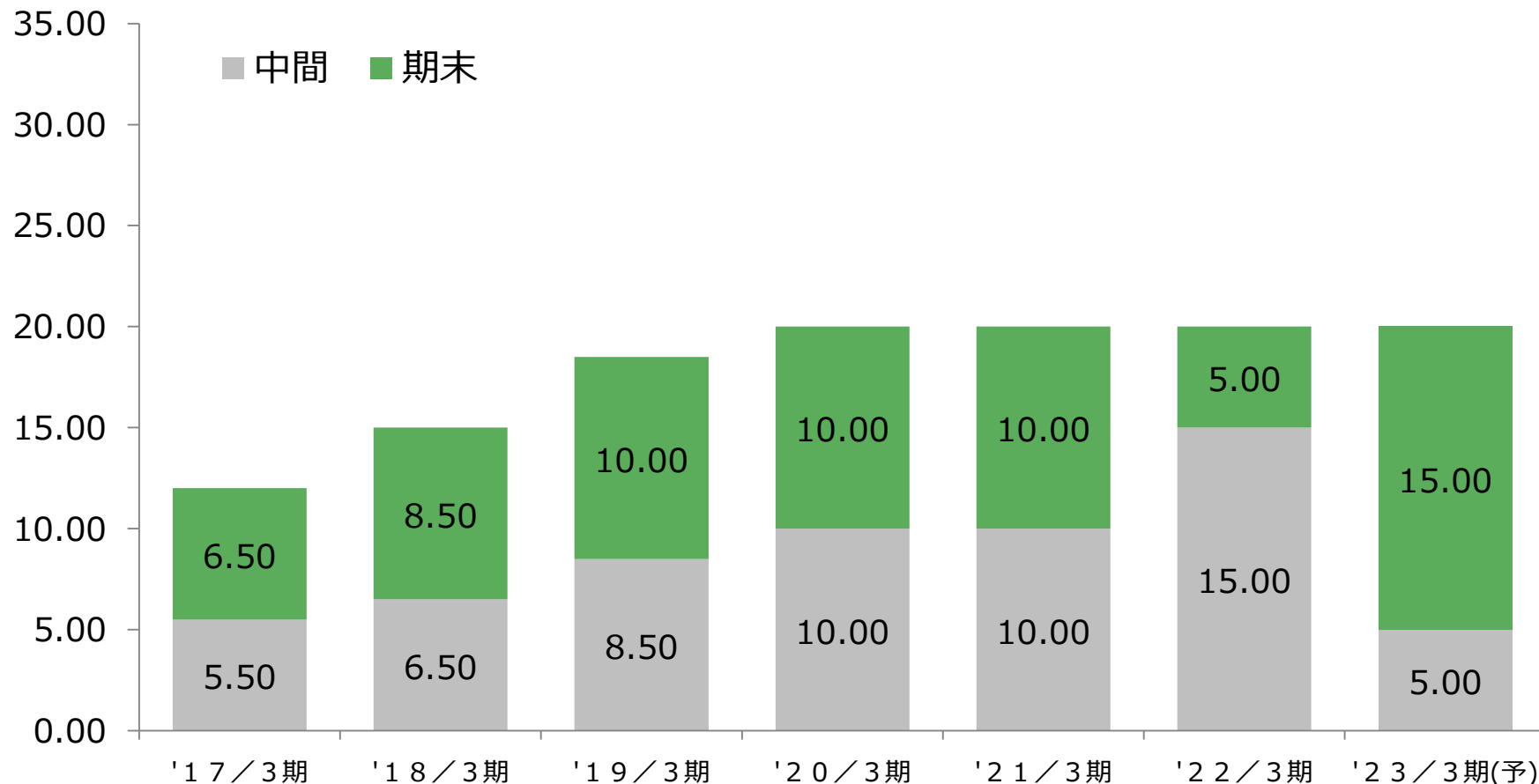
	'19/3期	'20/3期	'21/3期	'22/3期	'23/3期 (予)
投資の主な内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・Mg鋳造・リサイクル設備 ・INJ成形設備 ・新車生産設備 ・塗装ライン 	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・新車生産設備 ・INJ成形設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・Mg鋳造設備 ・ハトナム新拠点工場,土地 ・INJ成形設備 ・新車生産設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・工場増築 ・新車生産設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・新車生産設備

(7) 配当金



(単位：円)

<配当金推移>

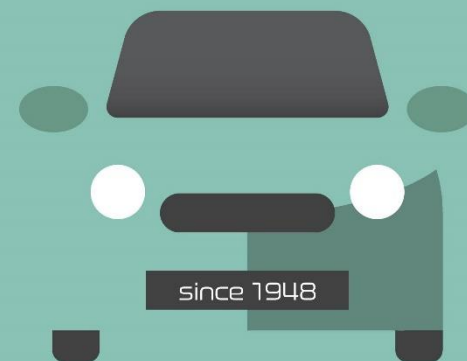


2022年3月期の年間配当金は20円
2023年3月期の年間配当金は20円を予定

I. 2022年3月期 決算報告

II. 2023年3月期 通期見通し

III. トピックス



日産 ARIYA (22年1月日本発売)



【当社が受注している部品】

安全部品

- ・HOD(※)機能付きハンドル
- ・運転席用エアバッグ

インテリア部品

- ・電動スライド機構付きコンソールボックス

エクステリア部品

- ・カバーカウルトップ
- ・プロテクターフェンダー
- ・ガイドエアーフロント
- ・ブラケットリアバンパー

(※) HOD (ハンズ・オン・ディテクション) とは
運転者がハンドルを把持しているか否かを
検知する機能です。
それにより自動運転の切替が可能となります。

出典：日産自動車株式会社 <https://www3.nissan.co.jp/>

ホンダ STEP WGN (2022年春 日本発売予定)



【当社が受注している部品】

インテリア部品

- ・バイザーメーター
- ・アッパーボックス
- ・ガーニッシュドライバー/アシスト
- ・空調ダクト
- ・コンソール関連部品 (2点)

新規

- ・インパネ周辺樹脂部品 (20点)
- ・リア空調ダクト (8点)

エクステリア部品

- ・スポイラーフロントバンパー
- ・フロントフロアアンダーカバー

新規

バッテリー冷却部品



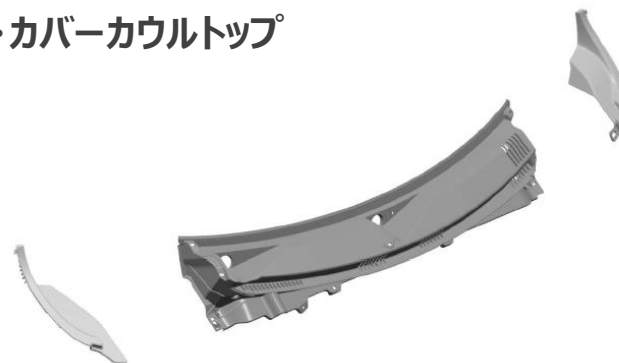
当社製部品がトータルで38部品採用されました。

スズキ アルト (21年12月日本発売)



【当社が受注している部品】
エクステリア部品

・カバーカウルトップ

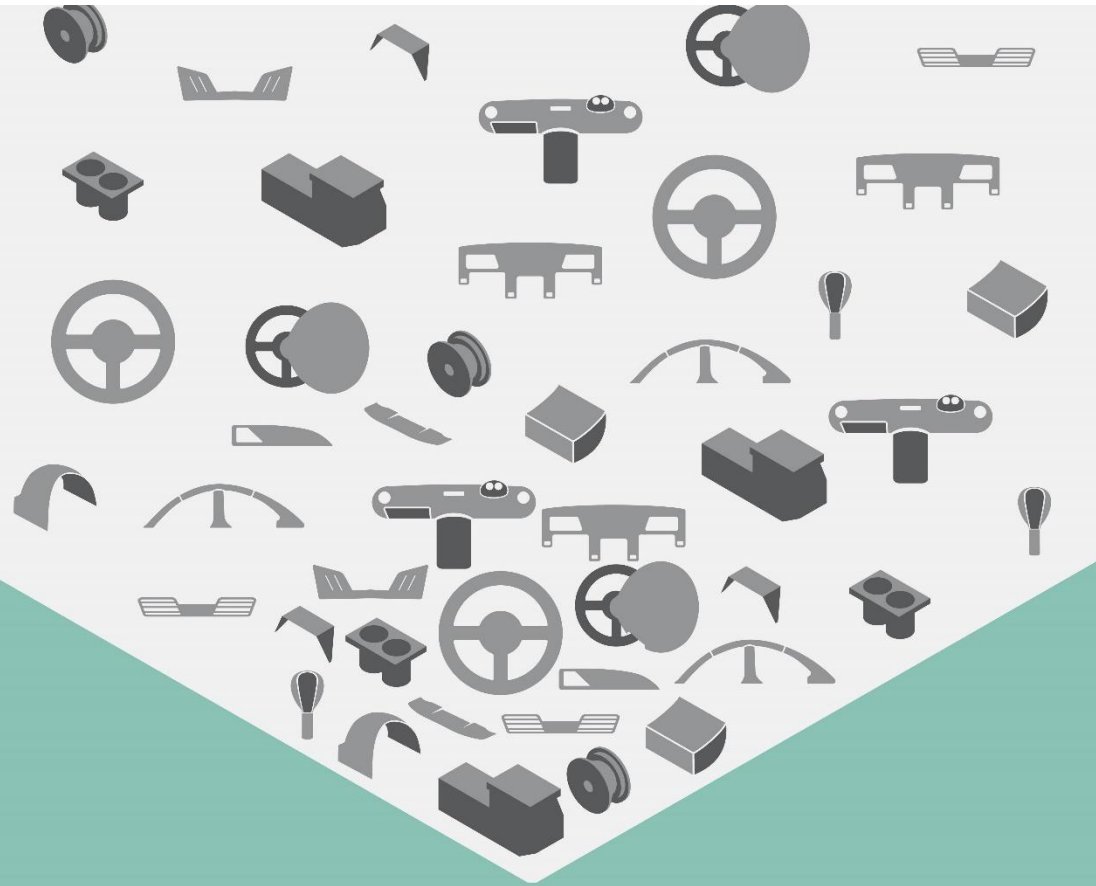


安全部品

新規 **・助手席用エアバッグ**



出典：スズキ株式会社 <https://www.suzuki.co.jp/>



 **日本プラスト株式会社**

2022年3月期 決算説明 (Ⅱ部)

【方針】

めまぐるしい環境変化に柔軟かつ迅速に対応しつつ
製品を通じて安全と快適を提供しているという自負の下に
全社員の意識を改革し、全てのお客様の信頼と満足を追求する

【スローガン】

INNOVATION ～革新～

- ・全従業員の価値観を “革新”
従来の固定概念（当たり前）からの脱却
- ・目指すべき企業価値基準を “革新”
1ランク上のStageへの挑戦
- ・文化・仕組みを “革新”
新時代・新世代に対応した文化・仕組み作り

【経営目標】

お客様品質評価 No.1

ROIC 2.8%（2023年3月期）

SDGsへの貢献（11のゴール）

お客様品質評価No.1



◆『0ディフェクト』達成に向けての取り組み

NPGS : Nihon Plast Global Standard

安全部品の重要工程の管理手法を厳格化、日本プラストグループ
世界全拠点で標準化することで重大クレームの発生を防止

日本プラストグループ国内外全拠点の共通認識

NPGSの適用拡大

NPGSの適用範囲を**樹脂部品**にも拡大
当社全製品の品質管理体制を厳格化

『QA認定ライン』拡大・工程保証度強化の取り組み

NPGSの管理レベル向上のため、工程保証度の
基準を強化した『QA認定ライン』の適用を拡大

『XX検証』活動の推進

NPGSやQA認定ライン制度の適切な運用を
体制面から評価する当社独自の仕組みを構築

ユーザー様目線での品質向上

自動車メーカー様の声のみならず、ユーザー様の
声も収集・分析、製品品質に反映

NPGS樹脂部品版の整備を完了
本格的な運用を開始。



QA認定ラインとして新たに
127件の生産ラインを認定、
「見守りカメラ」の導入等の
工程保証度強化施策も実施



運用体制を評価できる監督者を
新たに約20名養成、監査を強化。

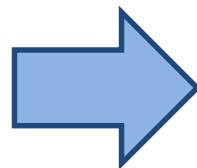


ユーザー様からのご意見に基づき、
改善アイテムをメーカー様に提案。



2022年度も更なる品質改善に向け、グローバルで活動を推進して参ります

- ◆ 生産体制強化
- ◆ アロケーションの最適化
- ◆ 生産の効率化（省人化・自動化）



ROIC向上
達成へ



北米
生産体制の強化

- 【アメリカ】
 - ・新機種生産設備導入
 - ・工場内動線改善
 - ・基幹システム更新
 - ・自動化促進
- 【メキシコ】
 - ・レンタル工場による生産能力増強
 - ・自動化促進

東南アジア・中国
生産体制の再編成

- 【中国】
 - ・立体自動倉庫導入
 - ・HODハンドル対応

日本
新機種対応
DX推進



- 【ベトナム】
 - ・本格稼働

- 【タイ】
 - ・第三工場建設

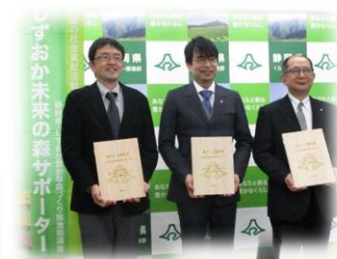


2022年度もROIC向上に向け、グローバルで活動を推進して参ります

■ 2021年度 活動実績

地球/地域環境への貢献

- 「6R 県民運動」海岸清掃活動へ参加
- 富士宮市 潤井川清掃活動の継続
- しずおか未来の森サポーター協定を締結
- 中国 武漢プラストへ蓄熱式脱臭装置を設置



ダイバーシティの推進

- 「働きやすい職場づくり」に向けた制度を新たに制定
- 障がい者の雇用拡大活動
- 健康経営の継続



ガバナンスの有効性と透明性の確保

- 機関投資家様向けWeb工場見学会の実施
- 決算報告のWeb配信継続
- 投資家様向け 1 on 1 ミーティングの拡大



優先すべき環境・社会課題

環境	環境	<ul style="list-style-type: none"> ▶事業を通じた地球環境への貢献 				
社会	地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域社会と共に発展成長を実現 				
	人権・労働	<ul style="list-style-type: none"> ▶多様な人材の活躍、ダイバーシティの推進 ▶人権の尊重/差別の禁止 				
	事業慣行	<ul style="list-style-type: none"> ▶サプライヤーチェーンのCSR推進 ▶汚職・贈収賄の禁止 				
統治	ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ▶有効性と透明性を重視 				

当社が取り組むゴール



■ 2022年度 活動計画

長期ビジョン		環境目標	指標	2022年度 目標値
低炭素社会 への貢献	2048年度 カーボンニュートラルを実現する	CO2排出量削減	2013年度売上高原単位 80.62 排出量(t)/売上高(億円)	53.41 (33.8%削減)
循環型社会 への貢献	2048年度 廃棄物総排出量50%削減 社内再資源比率45%以上 (2019年度比)	廃材排出量削減	2019年度売上高原単位 6.42 排出量(t)/売上高(億円)	6.09 (5.1%削減)
環境保全と 自然共生社会 への貢献	地域社会、行政、 NPOなどと連携した 自然共生、生態系保護活動 を促進する	事業所地域環境 保全活動参加	参加件数	各事業所 1件以上
		環境事故防止	発生件数	0件
環境配慮製品 の開発	軽量化仕様の採用 環境負荷物質 含有原料使用 0化 生分解・バイオマス原料の採用拡大	軽量化製品の開発	計画実施率	100%
		有害化学物質代替化	計画実施率	100%

ご視聴ありがとうございました。

◆決算説明に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。
お問い合わせフォーム：<https://forms.gle/4DPjkYJMx2HYthJb9>
(受付期限：2022年6月30日)



◆今後の運営の参考にさせていただきますので、よろしければアンケートにご協力ください。
※アンケートにご回答いただいた方、**先着50名に粗品をプレゼント**いたします。
アンケート入力画面：<https://forms.gle/w7CTeQRcxmWMP83G6>
(回答期限：2022年6月30日)



- ◆ 本資料に記載の将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。